

平成28年5月23日  
於：ブライトホール

## 第3回世田谷区外部評価委員会

### 議 題

1. 新たな評価軸の検討について
2. 外部評価区民ワークショップの開催について
3. その他

### 【資料】

- |     |                         |
|-----|-------------------------|
| 資料1 | 3つの新しい評価軸による行政評価実施要領（案） |
| 資料2 | 評価シート作成補助資料（案）          |
| 資料3 | 評価シート（案）                |
| 資料4 | 評価シート作成のためのチェックシート      |
| 資料5 | 基本計画重点政策抜粋（若者）          |
| 資料6 | 政策評価シート（若者が力を発揮する環境づくり） |
| 資料7 | 世田谷区外部評価区民ワークショップ（案）    |

3つの新しい評価軸による行政評価  
実施要領(案)

平成28年5月18日

世田谷区政策経営部庁内連携担当課

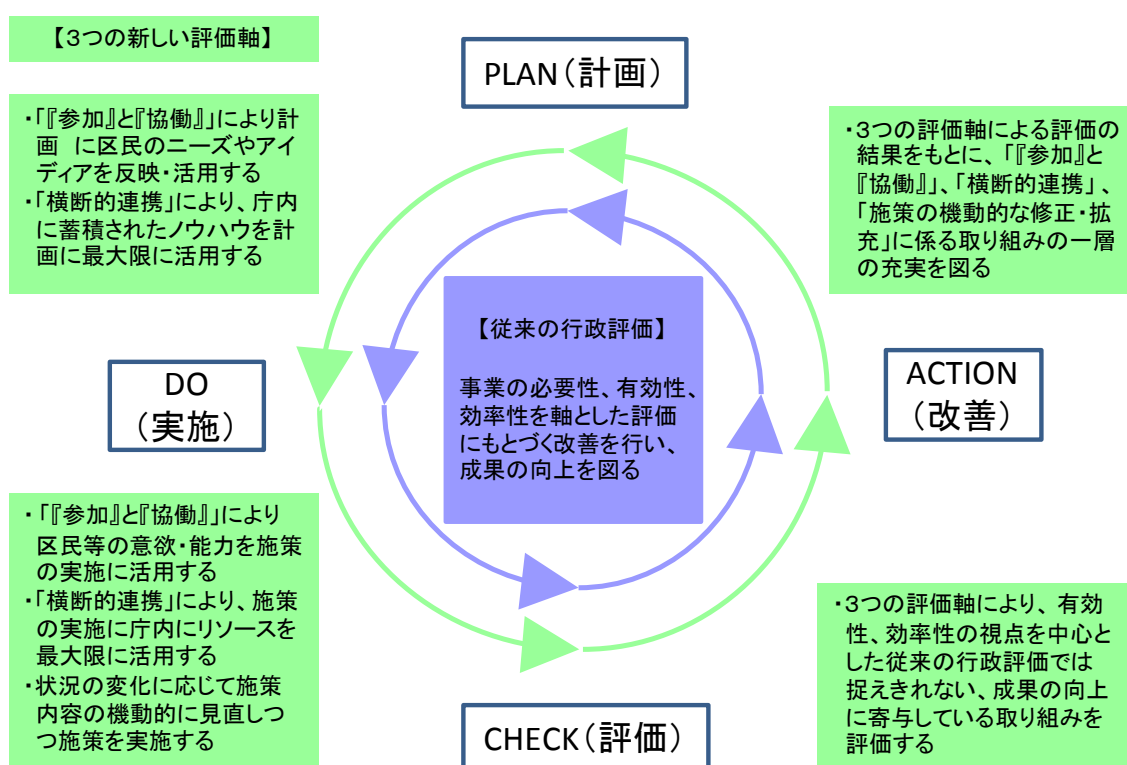
## 目 次

1. 3つの新しい評価軸の概要と目的 .....	1
2. 3つの新しい評価軸の定義 .....	1
3. 基本的事項 .....	2
4. 評価シートの記入要領 .....	2
5. 評価シート作成補助資料の記入要領 .....	4
6. 3つの新たな評価軸に係る取組みの詳細と具体例について【参考】 .....	7

## 1. 3つの新しい評価軸の概要と目的

- 基本構想が示す9つのビジョンの実現に向けて、施策や事業の成果をより豊かなものとするためには、区民とともにまちづくりを進めることや、庁内連携により施策・事業を推進すること、施策に取り組む組織や職員を側面的に支援することなどをこれまで以上に促進する必要があります。
- そのためには、こうした取組みを「見える化」し、適切に評価することが必要です。そこで、従来実施してきた、事業の必要性、有効性、効率性を軸とした行政評価に加えて、「『参加』と『協働』」、「横断的連携」、「施策の機動的な修正・拡充」の3つの新たな評価軸による評価を行います。

図表－1 従来の行政評価と3つの新しい評価軸の関係



## 2. 3つの新しい評価軸の定義

### (1) 「参加」と「協働」

- 区民等に「参加」の機会を提供し、その意見を計画に反映するとともに、区民・団体・NPO・事業者等との連携によりそのアイデアや能力、意欲を活かして具体的な施策・事業を実施する「協働」により、施策の目標実現に向けて効果的に施策を展開する取組みに関する評価

## (2) 「横断的連携」

- ・ 施策の計画策定、実施の各段階において、担当課だけでなく関連する分野の所管課と組織内横断的な連携を図り、それぞれの専門性、能力を有効に活用し、施策の目標実現に向けて効果的な施策を展開する取組みに関する評価

## (3) 「施策の機動的な修正・拡充」

- ・ 状況の変化に対応した施策の実施内容の見直しや、施策の円滑化のために実施した側面的な支援となる取組みなど、当初から予定されていた施策の内容以外に、その後の検討により新たに取組んだことに関する評価

# 3. 基本的事項

## (1) 評価対象

- ・ 評価は、基本計画の重点政策に位置づけられた施策（新実施計画事業）を対象として行います。

## (2) 従来の行政評価との関係

- ・ 従来の行政評価は今後も引き続き行い、3つの新たな評価軸による評価は、これを補完するものとして追加的に実施し、両者の評価結果を総合的に分析・検討し、施策の改善に役立てることとします。

## (3) 評価サイクル

- ・ 原則として、基本計画の重点政策に位置づけられた施策（新実施計画における事業）はすべて毎年評価を実施します。

## (4) 評価実施体制

- ・ 内部評価（評価シートの作成）は施策（新実施計画事業）の所管課が行い、庁内連携担当課との調整により内部評価結果を確定します。
- ・ 内部評価結果を外部評価委員会で審議し、その意見を反映し最終的な評価結果とします。

# 4. 評価シートの記入要領

## (1) 評価体系情報

- ・ 評価対象の施策の名称、基本計画において位置づけられている「重点政策」、「施策の目標と取組み」を記載してください。
- ・ 当該施策が位置づけられている「施策の目標と取組み」の数値目標、当該施策の成果指標（評価シートの3（2））を記載してください。
- ・ 当該施策の主管部、主管課を記載してください。

## (2) 施策の目的と内容 (評価シート1)

### ① 施策の目的 (評価シート1 (1))

- 重点政策の「施策の目標と取組み (A)」を実施することにより、どのような課題の解決を目指しているのかについて、該当する基本計画「重点政策」の「現状と課題」の内容をもとに記載してください。

#### <記入例>

「重点政策1 子ども若者が住みたいまちづくり、教育の推進」の「③若者が力を発揮する環境づくり」について、現基本計画 P40、重点政策1「現状と課題」③から、「子ども、若者が地域と関わる機会や活躍の場が不足している」を課題として記述)

### ② 施策の内容 (評価シート1 (2))

- 重点政策の「施策の目標と取組み (A)」を構成する「施策 (B)」の取組みの全体像を記載してください。

## (3) 施策で実施した主な事業の内容とその成功要因 (評価シート2)

### ① 「施策 (B)」で実施した事業の内容 (評価シート2 (1))

- 「施策 (B)」で実施した主な事業の内容を時系列で順番に記載してください。

#### ■ 事業内容を検討・計画する段階 (評価シート2 (1) ①)

- どのような事業について内容を検討・計画したか、事業の対象 (誰と、誰に、何を等)、実施内容 (何をするのか) と、検討・計画の方針や方法などについて記載してください。

#### ■ 事業内容を実施する段階 (評価シート2 (1) ②)

- どのような事業を実施したか、事業の対象 (誰と、誰に、何を等)、実施内容 (何をしたか) を記載してください。

#### ■ 施策全体として (評価シート2 (1) ③)

- ここまでに記載した事項の他に、時系列ではなく施策全体として年間を通じて行った事項があれば、事業の対象 (誰と、誰に、何を等)、実施内容 (何をしたか) を記載してください。

### ② 施策の事業を行う上で「成功要因 (C)」となった事項 (評価シート2 (2))

#### 【3つの新しい評価軸に係る取組み】

- ①で記載した内容ごとに、事業を行ううえで、効果のあった、助けになった事項 (「成功要因 (C)」) があれば、①の該当する内容に併せて時系列で順番に、対象 (誰と、誰に、何を等)、実施内容 (何をしたか) を記載してください。
- 成功要因が3つの新しい評価軸のどれに該当するか、「成功要因の分類」のプルダウンメ

ニューから選択してください。その他を選択した場合は分類の具体的なイメージを下の欄に記入してください。

※3つの新しい評価軸の各項目の具体的な内容や事例については後述する6の記載内容を参照してください。

#### (4) 事業の「成功要因 (C)」による成果について (評価シートの3)

##### ①課題解決の状況 (評価シートの3 (1))

- ・評価シート1 (1) に記入した課題が、事業によりどの程度解決したか、具体的に記載してください。

##### ②事業の「成功要因 (C)」による成果の指標値 (評価シートの3 (2))

- ・「成功要因 (C)」を行ったことで得られた効果 ((C) があつたことで効果が向上した、時間が短縮した等) を数値で定量的に表現できれば、記入欄に所定の事項を記載してください。成果の一部を表すものでかまいません。
- ・なお、施策評価の「目標・実績情報」の「目標」が、成果を現す指標として適切であればそれを記入してください。より適切と思われる指標があれば、それにとらわれずに自由に記入してください。

#### (5) 引き続き解決に向け取り組むべき課題、今後新たに取り組みたい事項

- ・評価シート1 (1) に記入した課題のうち、引き続き解決に向けて取り組むべき課題や、関連する新たな課題があれば記載してください。
- ・3つの新たな評価軸に係る取組みとして、「成功要因 (C)」として既に取り組んだ事項に加えて、新たに取り組みたいと考えている事項があれば記載してください。

## 5. 評価シート作成補助資料の記入要領

### (1) 評価シート作成補助資料の位置づけ

- ・本資料は、評価シートの2 (2) 「施策の事業を行う上で成功要因 (C) となった事項」を記載するにあたり、3つの新しい評価軸に係る取組みが、年間を通じた施策・事業の取組みの中でどのように行われたかを、評価シートに記載する前にあらかじめ時系列順に整理するために作成して頂くものです。
- ・この資料で整理して頂いた上で、その要点を評価シートに記載して頂くとともに、この資料自体も評価シートの補足説明資料として活用します。
- ・このため、すべての施策について必ず作成してください。

### (2) 各項目の記入要領

#### ①「評価軸に係る活動 (成功要因)」について

- ・評価対象の「施策 (B)」の内容ではなく、「施策の事業を行う上で成功要因 (C) とな

った事項」の内容を記載してください。

- ・ 具体的にどのような取組みが対象として想定されているかは、後述する6の記載内容を参照してください。
- ・ 該当する取組みがある場合は、個々の具体的取組みごとに行を分け、取組みを記載してください。

## ②「活動の対象者」について

- ・ 新しい評価軸に係る活動を「誰と」または「誰に対して」行ったか、その相手先となった対象者を記載してください。

## ③「時間軸」について

- ・ 各活動項目について、実際に行った活動の詳細を、特定の時点で行われたものはその時期の位置に「●」印で、一定期間行われたものは該当する実施時期・期間を矢印で記載し、その上に点線の文字枠で実施した内容を記載してください。
- ・ できるだけ詳しく、具体的な活動の局面ごとに分けて記載してください。

## ④「評価軸の区分」について

- ・ 各項目の活動が評価軸の区分のどれに該当するか、プルダウンメニューより選択してください。
- ・ 評価軸の各区分にどのような活動が該当するかは、後述する6の記載内容を参照してください。

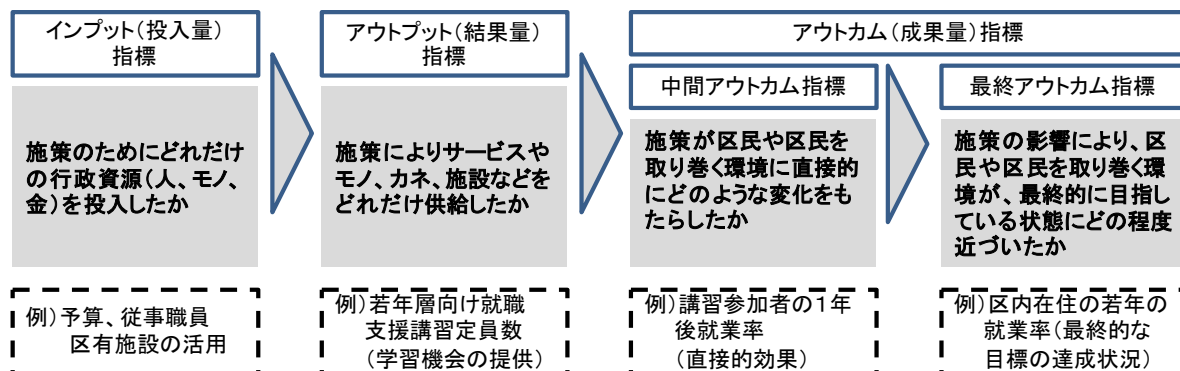
## ⑤「成果」について

### ■概要

- ・ 評価対象の「施策（B）」に対し、「成功要因（C）」を実施した結果、どのような成果が上がったかを示す指標として、適切と考えられるものについて記載してください。
- ・ ただし、指標は、何をどれだけ実施したかを示すもの（アウトプット指標）ではなく、あくまでも事業の結果として、区民や区民を取り巻く環境などにもたらした成果・効果を示すもの（アウトカム指標）を記載してください。
- ・ 指標は、該当する施策が位置づけられている重点政策の施策の目標や、行政評価における当該施策の目標指標が適切であればこれを活用してください。これらの指標よりも適切と思われる指標があれば、新たな指標を独自に設定してください。
- ・ アウトカム指標は、「施策（B）」の最終的な目標を適切に表現する指標（最終アウトカム指標）が望ましいですが、最終アウトカム指標は、一般に指標が表現する領域が広く、「施策（B）」や「成功要因（C）」以外の社会経済要因の影響を受ける余地が大きくなります。このため、成果をより適切に評価するため、別途「施策（B）」のより直接的な効果を表現する指標（中間アウトカム指標）を併せて設定してください。



図表－2 評価に用いる指標の位置づけ



図表－3 最終アウトカム指標と中間アウトカム指標の詳細

	中間アウトカム指標	最終アウトカム指標
位置づけ	最終的な目的達成に寄与する、施策による直接的な成果を表現する指標	施策の最終的な目的の達成度合いを表現する指標
メリット	指標値の変動と施策の成果の連動性が高い	最終的な目的の達成度合いを評価し易い
デメリット	指標で把握した効果が施策の最終的な目的の達成度合いにどの程度寄与しているかを客観的に示しにくい	指標がカバーする領域が広くなりがちで、施策の成果以外のものの影響により指標値が変動する
具体例 (若者就労支援事業の場合)	・サポートセンター講習参加者数 ・サポートセンターの講習参加者の1年後就業率 (事業実施内容である就労支援講習の直接的な成果を表現する指標)	・区内在住の若者(18～39歳)の就業率 (施策の目的である区内在住の若者全体の就労促進という目的がどの程度達成したかを表現する指標)

■ 記入要領

- ・ 中間アウトカム、最終アウトカムのそれぞれについて、「指標」欄に指標の名称、「実績値(対前年増減)」にその実績値と対前年増減を記載し、「指標の区分」欄で重点政策の施策の目標指標、行政評価の目標指標、独自に設定した目標指標のうち該当するものをプルダウンメニューで選択してください。
- ・ 指標はそれぞれ2つまで記入欄を設けていますが、3つ以上記載する場合は適宜記入欄(列)を増やしてください。

## 6. 3つの新たな評価軸に係る取組みの詳細と具体例について【参考】

### (1) 『参加』と『協働』に係る取組み

#### ① 「施策（B）」を検討する、計画する段階

##### ■取組みの詳細と具体例

- ・「施策（B）」を検討する、計画する段階における、「参加」と「協働」に係る取組みの詳細（相手となる主体と内容）、取組みの具体例は下表の通りです。

図表－4 検討・計画段階における『参加』と『協働』に係る取組みの詳細と具体例

主体と区分	取組みの内容	取組みの具体例
施策・事業の対象者の「参加」	【参加】施策・事業の内容、方法等に関するニーズ・要望等の把握	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民アンケート</li> <li>・区民説明会・タウンミーティング</li> <li>・区民モニター</li> <li>・区民参加会議・ワークショップ等（無作為抽出）</li> <li>・区民意見提出手続き（パブリックコメント）</li> <li>・区民参加会議・ワークショップ等（任意参加）</li> <li>・審議会等への参加</li> </ul>
連携・協力が期待される主体の「参加」	施策・事業の適切な内容、情報に関する意見・提案の聴取	<ul style="list-style-type: none"> <li>・区民参加会議・ワークショップ等（任意参加）</li> <li>・審議会等への参加</li> <li>・提案発表会等</li> <li>・団体・NPO等からの提案による事業計画の採択</li> <li>・団体・NPO等が実施している事業の区の事業への採択</li> <li>・団体・NPO等との協働による事業計画の策定</li> </ul>
連携・協力が期待される主体との「協働」	具体的な連携・協力に関する体制構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア、団体・NPO等の登録制度</li> <li>・協働事業に関する団体・NPOとの協定の締結</li> </ul>

##### ■取組みを実施する際の留意事項

- ・計画をより充実したものとする観点から、主体ごとの取組みの内容については、できる限りすべて実施することが望ましいといえます。
- ・また、同様の観点から、具体的取組みについても、内容とその狙いに即して、適した方法をできる限り幅広く、充実した内容で実施することが望ましいといえます。
- ・上記以外にも、計画をより充実したものとする観点から、有効な主体・内容・方法があれば積極的に実施してください。

#### ② 「施策（B）」を実施する段階

##### ■取組みの詳細と具体例

- ・「施策（B）」を実施する段階における、「参加」と「協働」に係る取組みの詳細（相手となる主体と内容）、取組みの具体例は下表の通りです。

図表－５ 実施段階における「『参加』と『協働』」に係る取組みの詳細と具体例

主体と区分	取組みの内容	取組みの具体例
施策・事業の対象者の「参加」	施策・事業による取組みへの参加	・イベント・活動・事業などへの参加 例：防災訓練、交通安全講習など普及啓発・促進型事業への区民や地域団体の参加、環境美化運動への地域団体の参加など
連携・協力が期待される主体との「協働」	施策・事業による取組みの担い手としての連携・協力	・公共的サービスや環境整備について、必要な能力や資源、ノウハウを有する主体との連携・協力 例：区の助成を活用した地域福祉サービスや青少年健全育成事業への専門性を有するNPOによる取組みなど

■取組みを実施する際の留意事項

- ・施策・事業の内容に応じて、効果的な実施のために適切と考えられる主体、内容、方法で実施することが望ましいといえます。
- ・上記以外にも、効果的な実施のために有効な主体・内容・方法があれば、積極的に実施してください。

(2) 「横断的連携」における望ましい取組みの考え方

① 「施策（B）」を検討する、計画する段階

■取組みの詳細と具体例

- ・「施策（B）」を検討する、計画する段階における、「横断的連携」に係る取組みの狙いと具体例は下表の通りです。

図表－６ 検討・計画段階における「横断的連携」に係る取組みの詳細と具体例

取組みの狙い	取組みの具体例
分野横断的な視点にたった課題・可能性の検討	・資料・情報の提供など担当者間の連携・協力 ・会議等検討作業への参加・協力
過去実施した類似・関連事業の参考情報（ノウハウ、留意点等）の活用	
関連事業の内容の調整（重複部分の整理、相乗効果が期待できる取組みの追加など）	

■取組みを実施する際の留意事項

- ・計画をより充実したものとする観点から、上記に示した狙いとそれに応じた取組みは、原則としてすべてその可能性を検討し、有効と考えられるものはすべて実施することが望ましいといえます。
- ・上記以外にも、計画をより充実したものとする観点から、有効な内容・方法があれば積極的に実施してください。

## ②「施策（B）」を実施する段階

### ■ 取組みの詳細と具体例

- ・「施策（B）」を実施する段階における、「横断的連携」に係る取組みの狙いと具体例は下表の通りです。

図表－7 実施段階における「横断的連携」に係る取組みの詳細と具体例

主体	取組みの狙い	取組みの具体例
施策・事業の分野と関連のある他分野の所管課	分野横断的に実施することで、施策・事業の有効性・効率性の向上や弊害の抑制を図る	・当該施策・事業と連携した他分野の施策・事業における取組みの実施 例：防災施策・事業の実効性確保に向けた、交通分野における防災上優先すべき道路の整備・改良事業への取組みの重点化 など

### ■ 取組みを実施する際の留意事項

- ・施策・事業の内容に応じて、効果的な実施のために適切と考えられる主体、内容、方法で実施することが望ましいといえます。
- ・上記以外にも、効果的な実施のために有効な主体・内容・方法があれば、積極的に実施してください。

## (3)「施策の機動的な修正・拡充」における望ましい取組みの考え方

### ■ 取組みの詳細と具体例

- ・「取組み内容の機動的な修正・拡充」に係る取組みは、原則としてすべて「施策（B）」を実施する段階において実施することが想定されます。
- ・「取組み内容の機動的な修正・拡充」に係る取組みの狙いと具体例は下表の通りです。

図表－8 実施段階における「施策の機動的な修正・拡充」に係る取組みの詳細と具体例

取組みの狙い	取組みの具体例
施策・事業で実施する事項の有効性・効率性を高める	・施策の取組み項目の実施円滑化や効果拡大に有効な側面的支援（アシスト）に関する取組み
施策・事業で予定していた内容の充実・見直しを図る	・ニーズや必要性の高まりに対応して新たに実施した取組み ・状況の変化に臨機応変に対応して内容を改善・拡充して実施した取組み

### ■ 取組みを実施する際の留意事項

- ・施策・事業の内容に応じて、有効な取組みをできる限り幅広く実施することが望ましいといえます。
- ・上記以外にも、施策・事業で予定されていた内容以外に有効な取組みがあれば積極的に実施してください。

以上





3つの新たな評価軸に係る評価 重点政策における施策評価 施策別評価シート【記入例】 (案)

■評価体系情報

重点政策名	1 子ども若者が住みたいまちづくり、教育の推進		
施策の目標と取組み(A)	③若者が力を発揮する環境づくり	指標	若者就労率や社会とのかかわり、サポートセンター就業率
施策名(B) (新実施計画事業名)	0501 若者の交流と活動の推進 (0502 若者の社会的自立の促進 0503 生きづらさを抱えた若者の支援)	指標	※3(2)で記載した成果の指標名を記入。3(2)が空欄の場合は施策評価の「目標・実績情報」の「目標」を記入。
主管部	子ども・若者部	主管課	若者支援担当課

■評価シート

1 (A)について(施策の目的と内容)  
 (1)重点政策に位置づけた(A)を実施することにより、どのような課題の解決を目指しているのか  
 ※(A)で解決を目指す課題について、該当する基本計画「重点政策」の「現状と課題」をもとに記載(例:現基本計画P40、重点政策1「現状と課題」③から、「子ども、若者が地域と関わる機会や活躍の場が不足している」を課題として記述)  
 (2)(A)を構成する(B)の取組みの全体像を教えてください  
 ※施策評価「事務事業基本情報」の「内容」欄より転記

2 (B)で実施した主な事業の内容と、その事業を行ううえで効果のあった、助けになった、人・物・取組み等について伺います(成功要因)  
 ※取り組んだ事項に対し記入欄が足りない場合は適宜行を追加してください

(1)(B)で実施した主な事業の内容を時系列で順番に記入してください

(2)左記(1)の主な事業を行ううえで、効果のあった、助けになった、人・物・取組み等(成功要因)があれば、時系列で順番に記載してください(C)

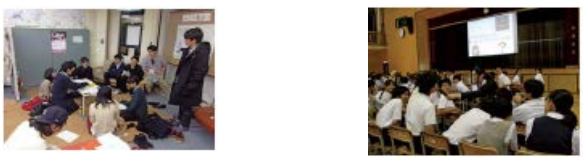
成功要因の分類(各区分の概要は別紙参照)

①(B)を検討する、計画する段階

実施時期(いつ)	年 月 ~ 年 月
施策(B)の実施内容の検討、策定	
対象(誰と、誰に、何を など)	就労支援が必要な若者
実施内容(何を したか)	・就労支援プログラムの検討・立案 参加者のニーズを踏まえた具体的な事業内容を検討、立案した。

効果のあった、助けになった、人・物・取組み等	
対象(誰と、誰に、何を など)	ワークショップ実践経験のある所管課
実施内容(何を したか)	下記のワークショップを実施するにあたり、当課で実践経験がなかったため、経験のある〇〇課職員から、事前のノウハウ提供と当日の応援などの支援を受けた
参考資料	

以下から選んでください
「横断的連携」

効果のあった、助けになった、人・物・取組み等	
対象(誰と、誰に、何を など)	本年度参加希望者(またはその保護者)
実施内容(何を したか)	事業内容に参加者のニーズを反映するため、ワークショップ形式により、要望や期待する事業イメージについて検討し取りまとめた。
参考資料	

以下から選んでください
連携・協力が期待される主体の「参加」

②(B)を実施する段階

実施時期(いつ)	年 月 ~ 年 月
実施した主な事業の内容	
対象(誰と、誰に、何を など)	就労支援が必要な若者
実施内容(何を したか)	・就労支援プログラムの実施 過年度事業参加者を講師とした「先輩受講生からのアドバイス『君にもきっとできる』」の実施

効果のあった、助けになった、人・物・取組み等	
対象(誰と、誰に、何を など)	過年度事業参加者
実施内容(何を したか)	過年度事業参加者を講師として、実体験に基づくアドバイスを趣旨としたセミナーについて、講師候補者との検討会を複数回開催し、企画立案のための意見交換会を行った。
参考資料	

以下から選んでください
連携・協力が期待される主体との「協働」

効果のあった、助けになった、人・物・取組み等	
対象(誰と、誰に、何を など)	過年度事業参加者
実施内容(何を したか)	上記で企画立案した内容にそって、実際に過年度事業者を講師としたセミナーを実施した。
参考資料	

以下から選んでください
連携・協力が期待される主体との「協働」

効果のあった、助けになった、人・物・取組み等	
対象(誰と、誰に、何を など)	過年度事業参加者
実施内容(何を したか)	上記で実施したセミナーについて、参加者アンケート・ヒアリングなどの満足度調査結果を検討データを収集の上で、講師との事業の事後評価と改善方針に係る意見交換会を実施した。
参考資料	

以下から選んでください
連携・協力が期待される主体との「協働」

③時系列(検討・計画段階、実施段階)ではなく、施策全体として

実施した主な事業の内容	
対象(誰と、誰に、何を など)	
実施内容(何を したか)	

効果のあった、助けになった、人・物・取組み等	
対象(誰と、誰に、何を など)	
実施内容(何を したか)	
参考資料	

以下から選んでください
「施策の機動的な修正・拡充」

裏面に続きます

3 (C)により、どのような成果が得られましたか。

(1) 1(1)に記入した課題はどの程度解決しましたか。以下の欄に具体的に記入してください。

(2)上記の効果を数値で(定量的に)表現できれば、以下の欄に記載してください((C)があったことで効果が向上した、時間が短縮した等)。成果の一部を表すものでかまいません。なお、施策評価の「目標・実績情報」の「目標」が、成果を現す指標として適切であればそれを記入してください。より適切と思われる指標があれば、それにとらわれずに自由に記入してください。

成果指標		実績の推移				
指標名	単位	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
若者就業率						
サポートセンター講習参加者の1年後就業率						
サポートセンター事業への参加者数						

4 引き続き解決に向け取り組むべき課題と、(C)以外で今後新たに取り組みたい内容があれば、以下の欄に具体的に記入してください



## 新たな評価軸評価シート作成のためのチェックシート

### ■3つの新たな評価軸(「参加」と「協働」、「横断的連携」、「改善」)の定義

#### 「参加」と「協働」

区民等に「参加」の機会を提供し、その意見を計画に反映するとともに、区民・団体・NPO・事業者等との連携によりそのアイデアや能力、意欲を活かして具体的な施策・事業を実施する「協働」により、施策の目標実現に向けて効果的に施策を展開する取組みに関する評価

#### 「横断的連携」

施策の計画策定、実施の各段階において、担当課だけでなく関連する分野の所管課と組織内横断的な連携を図り、それぞれの専門性、能力を有効に活用し、施策の目標実現に向けて効果的な施策を展開する取組みに関する評価

#### 「改善」

施策の取組み以外に、その後の検討により新たに取り組んだことに関する評価

### ■評価体系情報

重点政策名	1 子ども若者が住みたいまちづくり、教育の推進		
施策の目標と取組み(A)	③若者が力を発揮する環境づくり		
施策名(B) (新実施計画)	0501 若者の交流と活動の推進 (0502 若者の社会的自立の促進	0503 生きづらさを抱えた若者の支援)	
主管部	子ども・若者部	主管課	若者支援担当課

### ■評価シート

#### 1 (A)について(施策の目的と内容)

(1) 重点政策に位置づけた(A)を実施することにより、どのような課題の解決を目指しているのか

※(A)で解決を目指す課題について、該当する基本計画「重点政策」の「現状と課題」をもとに記入(例:基本計画P40、重点政策1「現状と課題」③から、「子ども、若者が地域と関わる機会や活躍の場が不足している」を課題として記入)

(2) (A)を構成する(B)の取組みの全体像を教えてください

※施策評価「事業内容」欄より転記

(3) (A)を構成する(B)の取組みの目標と実績(平成26年度)を教えてください

※施策評価「年度別目標と実績」欄より評価年度の目標と実績、目標達成度を転記

成果指標	単位	目標	実績	達成度

2 (B)の検討・計画段階における取組み						
(1)「参加」と「協働」に係る取組み						
①(B)の検討・計画時において、区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」を検討、計画されましたか						
◇実績の有無(該当に○)	検討に着手		方針を策定		具体的な計画を策定	
②(B)の検討・計画策時における区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」の実績はありますか。また、実績がある場合には、その具体的な内容について教えてください。(取組みの実績(アウトプット))						
◇実績の有無(該当に○)	実施した		実施していない			
1)施策・事業の対象者の参加(施策・事業の内容、方法等に関するニーズ・要望等の把握)						
◇参加・協働した主体						
◇参加・協働の方法						
区民アンケート	<input type="checkbox"/>	区民説明会・タウンミーティング			<input type="checkbox"/>	
区民モニター	<input type="checkbox"/>	区民参加会議・ワークショップ等(無作為抽出)			<input type="checkbox"/>	
区民意見提出手続き(パブリックコメント)	<input type="checkbox"/>	区民参加会議・ワークショップ等(任意参加)			<input type="checkbox"/>	
その他	<input type="checkbox"/>	→具体的に				
2)連携・協力が期待される主体の参加・協働(施策・事業の適切な内容、情報に関する意見・提案の聴取)						
◇参加・協働した主体						
◇参加・協働の方法						
審議会等への参加	<input type="checkbox"/>	区民参加会議・ワークショップ等(任意参加)			<input type="checkbox"/>	
提案発表会等	<input type="checkbox"/>	団体・NPO等からの提案による事業計画の採択			<input type="checkbox"/>	
団体・NPO等との協働による事業計画の策定	<input type="checkbox"/>	団体・NPO等が実施している事業の区の事業への採択			<input type="checkbox"/>	
その他	<input type="checkbox"/>	→具体的に				
3)連携・協力が期待される主体の参加・協働(具体的な連携・協力に関する体制構築)						
◇参加・協働した主体						
◇参加・協働の方法						
ボランティア、団体・NPO等の登録制度	<input type="checkbox"/>	協働事業に関する団体・NPO等との協定の締結			<input type="checkbox"/>	
その他	<input type="checkbox"/>	→具体的に				
4)その他の参加・協働						
◇参加・協働した主体						
◇参加・協働の内容(具体的な実施内容を以下に記入)						
5)参加・協働の規模(実施した主要なものについて妥当と考えられる実績数値を指標として設定し記入)						
実績内容(指標)		実績の推移				
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
③(B)の検討・計画時における区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」による効果はありましたか。また、効果があった場合には、その具体的な内容について教えてください。(取組みの効果(アウトカム))						
◇効果の有無(該当に○)	効果があった		効果が無かった			
◇効果の内容(計画がどのような面で向上、充実したか、どの手法が効果があったのか等)						

④(B)の検討・計画時における区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」により新たに生じた課題はありましたか。また、課題が生じた場合には、その具体的な内容について教えてください。

◇課題の有無(該当に○)	課題があった		課題が無かった		
--------------	--------	--	---------	--	--

⑤(B)の検討・計画時における区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」に関し、今後新たに取り組みたいと考えている事項はありますか。また、新たに取り組みたいと考えている事項がある場合には、その具体的な内容について教えてください。

◇有無(該当に○)	ある		ない		
-----------	----	--	----	--	--

(2)「横断的連携」に係る取組み

①(B)の検討・計画時において、組織横断的な連携や相互補完による効果的な施策・事業展開の可能性について検討、計画しましたか。

◇実績の有無(該当に○)	検討に着手		方針を策定		具体的な計画を策定	
--------------	-------	--	-------	--	-----------	--

②(B)の検討・計画時における組織横断的な連携の実績はありますか。また、実績がある場合には、その具体的な内容について教えてください。(取組みの実績(アウトプット))

◇実績の有無(該当に○)	実施した		実施していない		
--------------	------	--	---------	--	--

◇連携した所管課					
----------	--	--	--	--	--

他所管職員(個人)	<input type="checkbox"/>	他所管係・課(組織)	<input type="checkbox"/>		
-----------	--------------------------	------------	--------------------------	--	--

その他					
-----	--	--	--	--	--

◇連携の狙い

分野横断的な視点にたった課題・可能性の検討	<input type="checkbox"/>	過去実施した類似・関連事業の参考情報の活用	<input type="checkbox"/>
-----------------------	--------------------------	-----------------------	--------------------------

関連事業の内容の調整(重複部分の整理、相乗効果が期待できる取組みの追加など)	<input type="checkbox"/>
--	--------------------------

その他の狙い	<input type="checkbox"/>	→具体的に	
--------	--------------------------	-------	--

◇連携の方法

資料・情報の提供	<input type="checkbox"/>	会議等検討作業への参加・協力	<input type="checkbox"/>
----------	--------------------------	----------------	--------------------------

その他の方法	<input type="checkbox"/>	→具体的に	
--------	--------------------------	-------	--

◇連携の具体的な内容					
------------	--	--	--	--	--

③(B)の検討・計画時における組織横断的な連携による効果はありましたか。また、効果があった場合には、その具体的な内容について教えてください。(取組みの効果(アウトカム))

◇効果の有無(該当に○)	効果があった		効果が無かった		
--------------	--------	--	---------	--	--

◇効果の内容(計画がどのような面で向上、充実したか、どの手法が効果があったのか等)					
---	--	--	--	--	--

④(B)の検討・計画時における組織横断的な連携により新たに生じた課題はありましたか。また、課題が生じた場合には、その具体的な内容について教えてください。

◇課題の有無(該当に○)	課題があった		課題が無かった		
--------------	--------	--	---------	--	--

⑤(B)の検討・計画時における組織横断的な連携に関し、今後新たに取り組みたいと考えている事項はありますか。また、新たに取り組みたいと考えている事項がある場合には、その具体的な内容について教えてください。

◇有無(該当に○)	ある		ない		
-----------	----	--	----	--	--

**3 (B)の実施段階における取組み**

**(1)(B)の実施内容と実績(平成26年度)**

**①実績(平成26年度)**

※施策評価「年次別計画・実績」欄より転記

具体的な実施内容	単位	目標値	実績量	目標達成率

**②コスト情報(平成26年度)**

※施策評価「コスト情報」欄より転記

	予算現額	決算額	執行率	
歳出予算・決算				
歳入予算・決算				
人件費				
歳出決算額+人件費				

**③「参加と協働」、「横断的連携」、「改善」等による効果**

1)本シート1(1)に記入した課題はどの程度解決しましたか。以下の欄に具体的に記入してください。

2)上記の効果を数値で(定量的に)表現できれば、以下の欄に記入してください

効果内容(指標)	効果の推移					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	実績					
	実績					

**④課題及び今後の進め方**

※施策評価「課題及び今後の進め方」欄の記載内容及び3(2)～(4)の評価結果を踏まえて記入

**(2)「参加」と「協働」に係る取組み**

**①(B)の実施時において、区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」を検討、計画しましたか。**

◇実績の有無(該当に○)	検討に着手		方針を策定		具体的な計画を策定	
--------------	-------	--	-------	--	-----------	--

**②(B)の実施時における区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」の実績はありますか。また、実績がある場合には、その具体的な内容について教えてください。(取組みの実績(アウトプット))**(※重点政策において「区民の参加・協働でともに進める政策」に記載している項目に関する実績の有無に留意)

◇実績の有無(該当に○)	実施した		実施していない		
--------------	------	--	---------	--	--

**1)施策・事業の対象者の参加・協働(施策・事業による取組みへの参加)**

◇参加・協働した主体	
------------	--

◇参加・協働の内容(具体的な実施内容を以下に記入)

**2)連携・協力が期待される主体の参加・協働(施策・事業による取組みの担い手としての連携・協力)**

◇参加・協働した主体	
------------	--

◇参加・協働の内容(具体的な実施内容を以下に記入)

3)その他の参加・協働						
◇参加・協働した主体						
◇参加・協働の内容（具体的な実施内容を以下に記入）						
4)参加・協働の規模(実施した主要なものについて妥当と考えられる実績数値を指標として設定し記入)						
実績内容(指標)		実績の推移				
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
③(B)の実施時において、区だけで実施した場合と比較した場合に、区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」を実施したことによって得られた効果(成果の質の向上)はありましたか。また、効果があった場合には、その具体的な内容について教えてください。(取組みの効果(アウトカム))						
◇効果の有無(該当に○)		効果があった		効果が無かった		
◇施策の実績や成果の向上に関する効果の内容 <ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような実績・成果がどのような面で向上・充実したか</li> <li>・どの手法が効果があったのか</li> </ul>						
◇参加・協働による施策の実績指標、成果指標の向上 区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」により、3(1)①に記載した施策の実績の指標値や、3(2)②に記載した施策の成果の指標値が向上した場合、その増加分を指標値として記入。						
効果内容(指標)		効果の推移				
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					

◇施策実施の効率性に関する変化の内容 区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」により、施策実施に関与する職員数、職員の従事時間数、事業費がどのように変化したのか						
◇施策実施の効率性に関する変化の規模 施策実施に関与する職員数、職員の従事時間数、参加・協働の取組みによる事業費の増減量 (注:実績総量ではなく参加・協働の取組みにより変化した量を部分的・定量的に把握可能な場合は記入)						
変化内容(指標)	変化の推移					
施策実施に関与する職員数の増減(人)	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
施策実施に要する職員の延べ従事時間数の増減(人日)	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
施策実施に係る事業費総額の増減(千円)	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
◇施策の実績・成果の向上効果と効率性の変化を踏まえた取組みの効果の評価 施策の実績・成果の向上効果の大きさと、効率性の変化(職員負担や事業費の増減)の両側面からみて、参加・協働の取組みの効果をどのように評価しているかを記入。						
④(B)の実施時における区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」により新たに生じた課題はありましたか。また、課題が生じた場合には、その具体的な内容について教えてください。						
◇課題の有無(該当に○)	課題があった		課題が無かった			
⑤施策の実施時における区民等の「参加」や、団体・NPO等との「協働」に関し、今後新たに取り組みたいと考えていることはございますか。また、新たに取り組みたいと考えていることがある場合には、その具体的な内容について教えてください。						
◇有無(該当に○)	ある		ない			



(3)「横断的連携」に係る取組み						
①(B)の実施時において、組織横断的な連携を検討、計画されましたか。						
◇実績の有無(該当に○)	検討に着手		方針を策定		具体的な計画を策定	
②(B)の実施時における組織横断的な連携の実績はありますか。また、実績がある場合には、その具体的な内容について教えてください。(取組みの実績(アウトプット))						
◇実績の有無(該当に○)	実施した		実施していない			
◇連携した所管課						
◇連携の狙い(例:施策・事業の有効性・効率性の向上、弊害の抑制、等)						
◇連携の概要						
◇横断的連携の具体的内容と役割分担						
・重点政策において「各分野で連携し進める取組み」にに記載している項目のうち(B)に関連すること						
項目名	具体的内容・主管課と連携先部署のそれぞれの役割					
・重点政策の「各分野で連携し進める取組み」に記載している項目以外に取り組んだこと (具体的な実施内容を以下に記載)						
③(B)の実施時において、所管課だけで実施した場合と比較した場合に、組織横断的な連携をしたことによって得られた効果(成果の質の向上)はありましたか。また、効果があった場合には、その具体的な内容について教えてください。(取組みの効果(アウトカム))						
◇効果の有無(該当に○)	効果があった		効果が無かった			
◇施策の実績や成果の向上に関する効果の内容 ・どのような実績・成果がどのような面で向上・充実したか ・どの手法が効果があったのか						
◇横断的連携による施策の実績指標、成果指標の向上 組織横断的連携により、3(1)①に記載した施策の実績の指標値や、3(2)②に記載した施策の成果の指標値が向上した場合、その増加分を指標値として記入。						
効果内容(指標)	効果の推移					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					

◇施策実施の効率性に関する変化の内容  
組織横断的連携により、施策実施に関与する職員数、職員の従事時間数、事業費がどのように変化したのか

◇施策実施の効率性に関する変化の規模  
施策実施に関与する職員数、職員の従事時間数、「横断的連携」の取組みによる事業費の増減量  
(注:実績総量ではなく「横断的連携」の取組みにより変化した量を部分的・定量的に把握可能な場合は記入)

変化内容(指標)	変化の推移					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					
	年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	実績					

◇施策の実績・成果の向上効果と効率性の変化を踏まえた取組みの効果の評価  
施策の実績・成果の向上効果の大きさと、効率性の変化(職員負担や事業費の増減)の両側面からみて、「横断的連携」の取組みの効果をどのように評価しているかを記入。

④(B)の実施時における組織横断的な連携により新たに生じた課題はありましたか。また、課題が生じた場合には、その具体的な内容について教えてください。

◇課題の有無(該当に○)	課題があった		課題が無かった		
--------------	--------	--	---------	--	--

⑤(B)の実施時における組織横断的な連携に関し、今後新たに取り組みたいと考えていることはありますか。また、新たに取り組みたいと考えていることがある場合には、その具体的な内容について教えてください。

◇有無(該当に○)	ある		ない		
-----------	----	--	----	--	--



#### (4)「改善」に係る取組み

当初に計画した(B)の取組み以外に実施したことはありますか。以下の例を参考にその具体的な内容について教えてください。

【当初に計画した(B)の取組み以外に実施したことの例】(具体的な内容を以下に記入)

\* (B)で実施した取組みの有効性・効率性を高めるもの

例: (B)の取組みの実施円滑化や効果拡大に有効な側面的支援(アシスト)に関すること

\* (B)で予定していた取組みの充実・見直しを図るもの

例: ・新たにニーズや必要性の高まりに対応して実施したこと

・(B)の取組みを改善、拡充して実施したこと

\* その他、(B)の取組み以外に取り組んだもの

取り組めた  
こと、その理  
由

取り組めな  
かったこと、  
その理由

今後取り組  
みたいこと

# 1 子ども若者が住みたいまちづくり、教育の推進

## 子育て応援都市をめざします

平成21年(2009年)から平成25年(2013年)にかけて、5歳以下の未就学児童が毎年約1,000人増加する傾向が続いています。これは、全国でも稀なことです。その反面、保育サービス待機児童の増加は深刻で、平成30年(2018年)4月までに保育定員を約2万人にする目標に向けて整備を進めています。

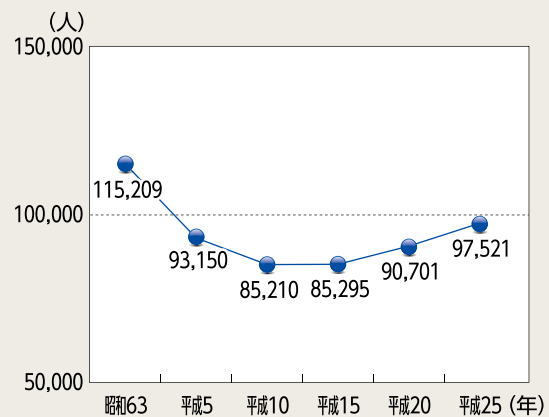
区では、全国に先がけて妊娠から出産、乳幼児からの育児支援をきめ細かく進めています(産後ケアセンター、さんさんサポート、おでかけひろば等)。

さらに、在宅子育てに力を入れ、子育て家庭を応援していきます。地域に根ざした質の高い教育環境を充実するとともに、子どもたちが自ら主役として、豊かに個性や能力を発揮できる場や機会を提供します。中高生世代の活動の場をひろくと共に、若者へと切れ目のない支援のしくみをつくります。

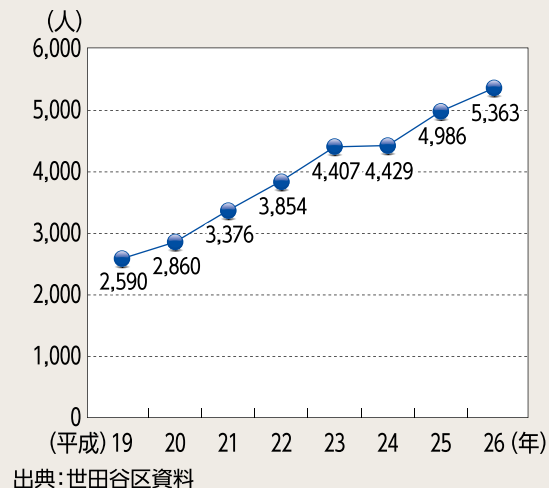
### 【現状と課題】

- ①経済、雇用環境の変化から近年、保育サービスへのニーズが増大し、在宅子育て支援も含めて孤立しがちな子育て家庭を支える基盤を強くすることが求められています。
- ②質の高い義務教育だけでなく、配慮を要する児童、生徒への教育的ニーズの高まりや、虐待、いじめの増加など、子どもたちをとりまく環境の変化に対応した教育環境が求められています。また、声をあげにくい子どもの声を聞くしくみなど、支援を必要とする子どもへのサポートの充実が求められています。
- ③子ども・若者の居場所や地域と関わる機会が十分でなく、活躍の場が限られています。また、社会性やコミュニケーション等の問題が原因で就労や自立につながらないなど、さまざまな理由から生きづらさを抱えた若者が増えています。
- ④都市化の進展の中で子どもたちが自由に外遊びをするスペースは減少し、「子どもの声」が近隣問題になるなど、子どもを支える地域コミュニティの再生も課題です。

■世田谷区の年少人口(0~14歳)の推移



■認可保育園入園申込者数の推移(各年4月入園選考)





中学生と乳幼児とのふれあい体験

### 【施策の目標と取組み】

#### ①子育て環境基盤の整備（指標：子育てしやすい環境意識）

潜在的な需要も含め、多様化する保育ニーズに的確に対応するため、保育サービスの量的な拡充や、質の維持向上を実現し、保育サービス待機児解消に努めるとともに、幼児教育の充実を図ります。また、地域の子育て家庭の孤立を防ぐため、在宅での子育てを支援し、子育てひろばやおでかけひろばなど、親子が交流し、学びあう場を充実します。さらに、障害のある子どもや、ひとり親家庭、経済的困窮の影響を受けている子どもなど、支援が必要な家庭の子どもの育ちを支えていきます。

#### ②教育環境と支援体制の充実（指標：教育相談の件数）

世田谷らしい豊かな教育基盤を活かして、「世田谷9年教育」の推進などを通し、子どもの一人ひとりの個性・能力を伸ばし、学校・家庭・地域が連携・協働して育みます。小中学校における特別支援教育にかかわる体制強化を進めるとともに、いじめ防止対策推進法も踏まえ、教育相談機能・不登校対策のさらなる充実を図ります。また、複雑化・多様化する子どもたちの声を聞くしくみづくりも充実していきます。

#### ③若者が力を発揮する環境づくり（指標：若者就労率や社会とのかかわり、サポートセンター就業率）

支援の必要な子ども・若者を支えるための生活面や就職などの相談・支援機関、就労や自立支援団体などのネットワークの充実を図り、地域社会との信頼関係の構築や社会生活への移行をめざします。また、児童館や社会教育施設等、若者や青少年活動の場のさらなる活用を通じて、参加・参画と地域での主体的な活動を通して、担い手としての若者を支援します。

#### ④子どもにやさしいまちづくり（指標：子育てしやすい環境意識）

地域と連携し、地域ぐるみで子どもを育て、教育していけるよう、地域における子ども・子育て支援活動や信頼される学校づくりを進めます。

### 3 重点政策

#### 【推進のイメージ】

教育	子育て支援	若者の応援
各分野で連携し 進める取組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 保育サービスの拡充と質の維持・向上、幼児教育の充実</li> <li>● 在宅子育ての支援とひとり親支援等の支援</li> <li>● 中高生の居場所、子どもの居場所の充実</li> <li>● 若者の就労・自立の支援</li> <li>● 世田谷9年教育の推進</li> <li>● 複雑化・多様化する子どもたちの声を聞くしくみづくり</li> </ul>	ほか
区民参加・ 協働でともに 進める政策	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 学校・家庭・地域の連携</li> <li>● 地域ぐるみで子どもを育て、信頼される学校づくり</li> <li>● 地域での親と子どもの交流と機会、提供によるコミュニティづくり</li> </ul>	

#### 【関連施策】

分野別政策	新実施計画事業
子ども若者・教育	若者の交流と活動の推進、家庭・地域における子育て支援の推進、保育・幼児教育の充実、知育・徳育・体育の充実、特別支援教育の充実、支援を必要とする子どもと家庭のサポート、教育相談・不登校対策の充実

#### 【基本構想】

九つのビジョン	個人	子ども教育	健康	災害	環境	産業	文化	まち	参加
---------	----	-------	----	----	----	----	----	----	----



## 政 策 評 価 シ ー ト

	政策経営部確認中		
評価年度	2014		20140000000996
	2015年08月28日		後藤 英一

### 評価体系情報

	50000000
	若者が力を発揮する地域づくり
主管部	子ども・若者部
所管部	子ども・若者部、総合支所、産業政策部、障害福祉担当部、世田谷保健所、教育委員会事務局
計画年度	2014 ～ 2017
	新実施計画事業 基本計画分野別政策に基づく取組み 子ども若者・教育 若者が力を発揮する地域づくり 地域社会を創る生涯学習の充実 子どもが育つ環境づくり 質の高い学校教育の充実 虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援

### 政策基本情報

	中高生世代の青少年が地域の担い手として活躍できるよう、その活動を支援するとともに、若者の就労による社会的自立や、生きづらさを抱えた若者の自立に向けた支援を通じて、若者自らが持つ力を発揮できる地域づくりに取り組む。
事業目的	自主的な活動や地域との交流などの経験の積み重ねを通して、中高生世代の青少年の社会への参加・参画意欲を醸成することにより、次代の担い手づくりを推進する。 自ら職業人生を切り拓く若者を育成する。 生きづらさを抱えた若者が、次のステップへと進めるよう支え、自らが持つ力の自覚と発揮を促す。

	総額	平成 26(2014) 年度	平成 27(2015) 年度	平成 28(2016) 年度	平成 29(2017) 年度
事業費	398,146 千円	85,746 千円	105,305 千円	103,586 千円	103,509 千円
	-千円	-千円	-千円	-千円	-千円

### 実績

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 中高生世代の居場所づくり                             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 児童館支援館…2 館開設</li> <li>② 児童館ティーンズプロジェクト参加者数…2,932 人</li> </ul> </li> <li>・ 青少年交流センター                             <ul style="list-style-type: none"> <li>① 池之上と野毛に青少年交流センターの開設</li> <li>② (仮称) 希望丘青少年交流センターの基本構想の検討</li> </ul> </li> <li>・ 世田谷ユースリーダー事業…世田谷リーダースクールと児童館が連携した事業の実施</li> <li>・ せたがや若者サポートステーション及びヤングワークせたがや…セミナー参加者 146 人、進路決定者 183 人</li> <li>・ 若年者と中小企業の就業マッチング…就職者数 70 人</li> <li>・ 生きづらさを抱えた若者の支援…メルクマールせたがやの開設</li> </ul>
補足説明	



**政策評価**

	<p>若者の交流と活動の推進では、中高生の居場所づくりや青少年交流センターの整備、世田谷ユースリーダー事業の実施など、計画のとおり推進することができた。</p> <p>若者の社会的自立の促進では、せたがや若者サポートステーション及びヤングワークセタがやにおける進路決定者が目標を上回り、若年者と中小企業のマッチングでも就職決定者数が目標を上回るなど、計画以上の実績をあげることができた。</p> <p>生きづらさを抱えた若者の支援では、生きづらさを抱えた若者を支援するための拠点整備や庁内関係所管や関係機関との支援ネットワークを構築し、計画のとおり推進することができた。</p>
課題及び今後の進め方	<p><b>【若者の交流と活動の推進】</b> 若者の活動を通じた地域の活性化を目指すため、事業やプログラムの内容をより地域を巻き込んだ内容に見直していく。また、世田谷区内の各地域を越えて青少年が交流するための仕組みづくりを進める。</p> <p><b>【若者の社会的自立の促進】</b> ものづくり学校との連携を進め、ヤングワークセタがやにおける若年層の就労支援の充実を図るとともに、若年者と中小企業の就業マッチングでは区内大学等の支援に重点をおいた取り組みを進める。</p> <p><b>【生きづらさを抱えた若者の支援】</b> 関係機関とのネットワークの一層強化し、より効果的な相談支援機能としての充実を図る。 また、メルクマールの居場所で実施するプログラムの内容、手法等について、サポートステーション等と連携して充実を図る。また、家族を通じた本人へのアプローチのほか、民生委員等の地域で活動している方々の協力を得て、潜在化しているひきこもりの若者を発掘し、支援につなげる。</p>

**属する施策情報**

	<p><b>若者の交流と活動の推進</b> 子ども・若者育成支援推進法及び国の子ども・若者ビジョンの趣旨を踏まえ、中高生世代を始めとした青少年が、地域の担い手として活躍できるよう環境を整備する。</p> <p><b>若者の社会的自立の促進</b> 自ら働き方を切り開く若者へ育てるための支援を行う。</p> <p><b>生きづらさを抱えた若者の支援</b> 社会性やコミュニケーション等の問題が原因で就労や自立につながらず、生きづらさを抱えている若者の自立に向けた支援を行う。</p>
--	--

案件名	所管部
若者の交流と活動の推進	子ども・若者部、教育委員会事務局
若者の社会的自立の促進	産業政策部、子ども・若者部
生きづらさを抱えた若者の支援	子ども・若者部、総合支所、産業政策部、障害福祉担当部、世田谷保健所

コスト情報

(単位：円)

		2014	2015	2016	2017
歳出予算・ 決算	予算現額	88,713,000			
	決算額	85,745,866			
	執行率	96.7%			
歳入予算・ 決算	予算現額	0			
	決算額	3,224,000			
	収入率	0%			
人件費		85,618,320	105,428,400	0	0
歳出決算額 +人件費		171,364,186	105,428,400	0	0

確認情報

次評価	<input type="checkbox"/> 1 担当 <input type="checkbox"/> 2 課長 <input type="checkbox"/> 3 部長
-----	---



## 世田谷区外部評価区民ワークショップ（案）

日時：平成 28 年度 7 月 31 日（日） 場所：世田谷産業プラザ

### 目的

現在外部評価委員会にて検討されている行政評価の「新たな評価軸」を実際に使ってみることで、区民の皆様から「新たな評価軸」に対する意見を広く伺うことで、今後の外部評価委員会での検討の参考にするとともに、行政評価における「新たな評価軸」について区民の皆様に取り組みのご理解と周知を目的に実施いたします。

### テーマ

「使ってみよう！体感してみよう！新たな評価軸」

### 参加者

50 名程度（募集方法：公募区民、無作為抽出区民、これまでに区開催イベントに参加した区民など）

### 議論対象

「新しい評価軸」のうち区民の皆様との関係性がより深い「『参加』と『協働』」を対象とします。また、世田谷区基本構想における重点施策のうち、4 つ程度の事業を議論の対象とします。（「若者」「子育て支援」「高齢者（見守りなど）」「地域防災」などを想定）

### 成果の活用方針

ワークショップの成果は、外部評価委員会において新しい評価軸を検討する際の参考にするとともに、評価シート記入要領における「『参加』と『協働』」の取り組み例の充実に活用します。

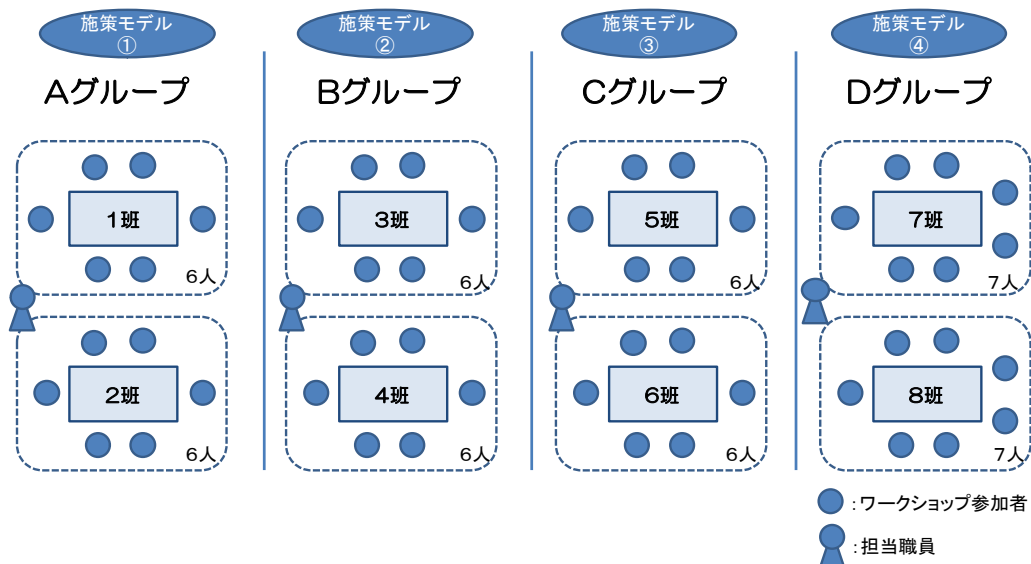
### 本日の流れ

1. 開会の挨拶	(5 分)	13:00~13:05
2. ワークショップの概要・進め方の説明	(10 分)	13:05~13:15
3. 情報提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 行政評価の概要（目的・基本的な仕組み）について情報提供を行うとともに、現在行われている外部評価委員会での検討事項や検討経過について報告を行うこととする。</li> </ul>	(20 分)	13:15~13:35
4. ワーク①「重点政策の施策をモデルとして新しい評価軸（『参加』と『協働』）をつかってみよう」 <ul style="list-style-type: none"> <li>■ アイスブレイクも兼ねてワールドカフェ方式を採用し、グループ間で移動することとする。</li> <li>■ 職員を各班に配置し、当該事業に関する情報提供を行った上で、以下のように議論することとする。</li> </ul>	(90 分)	13:35~15:05

<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 4つ程度の事業をモデルとして取り上げ、委員会で議論された「新しい評価軸」に基づいてあらかじめ内部評価を行った上で、それに対して参加者が「良いと思ったこと」「疑問に思ったこと」「不十分、改善が必要と思ったこと」など、感じたことを取りまとめる。</li> <li>■ 議論の結果は発表を行い、全体で共有することとする。</li> </ul>		
(休憩)	(10分)	15:05～15:15
<p>5. ワーク②「重点政策の施策への新しい参加・協働の可能性を探る」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ ワーク②では、班を固定して、議論することとする。</li> <li>■ ワーク①で出た現在行われている「参加」「協働」に係る取組みについて、新たな取組みや既存の取組みを見直すなど区民としてその施策にどのように参加あるいは協働することができるのか、「こんなことができる」というアイデアについて議論してもらう（参加区民に施策を自分事として捉えてもらう）</li> <li>■ 議論の結果は発表および投票を行い、全体で共有することとする。</li> </ul>	(100分)	15:15～16:55
6. 閉会の挨拶	(5分)	16:55～17:00

### グループ編成

参加者 50 名を、6 人班×6 つおよび 7 人班×2 つに班分けを行うこととします。2 班ごとにグループを編成し、グループごとにモデルとする施策を割り当て、議論してもらうこととします。また、職員をグループごとに配置し、施策に関する情報提供等を行います。



## 進め方

### 情報提供【20分】

- ここでは、世田谷区職員（あるいは外部評価委員会委員）より、外部評価委員会における検討事項や検討経過について報告を実施するとともに、ワークショップの実施目的および意見の活用方法について説明を行います。
- 参加者の理解を促進するために行政評価の概要（目的・基本的仕組み）について説明します。
- 加えて、今回の議論の対象となる事業について、その概要について説明します。（注：各事業の詳細は、ワーク①において各グループに配置される担当職員より紹介する旨を伝える。）

### ワーク①「重点政策の施策をモデルとして『新しい評価軸（「参加」と「協働」）』をつかってみよう」（90分）

ここでは、区の重点政策の施策をモデルとして、「新しい評価軸」のうち「参加」「協働」の評価軸を実際に使い、行政評価を疑似体験してみます。また、ワールドカフェの要素を取り入れ、参加者間の関係構築を行います。

#### ～1クール目～【35分】

- 班ごとに役割（進行役、タイムキーパー等）を決めます。【3分】
- 次に、グループごと配置された職員から、当該事業の概要について説明を聞きます。【5分程度】
- 外部評価委員会で議論された「新しい評価軸」に基づいてあらかじめ内部評価を行った行政評価シートを題材にして、当該事業について参加者が「良いと思ったこと」「疑問に思ったこと」「不十分、改善が必要と思ったこと」などを付箋に書きだしてもらいます。【10分程度】

#### <ふせんの書き方>

- ・ふせんにはサインペンで記入しましょう
- ・長い文章ではなく、短い単語やフレーズでまとめましょう
- ・1枚のふせんには、1つのことだけ書きましょう。ふせんはたくさん使って構いません

- 各参加者が、1人1分程度で、付箋に書きだした内容を紹介しながら、模造紙に付箋を貼りだします。似ている意見は近くに張り出しておきます。【7分程度】

記入シートのイメージ  
(1クール目)

班名	メンバー
重点政策名「〇〇〇」	モデル施策名「〇〇〇」
■良かった点 	■疑問点・改善点 
■その他の意見 	

- 全員が意見を出し終わったら、お互いに感じたことや疑問に思ったことを自由に議論します。【10分】

～移動～【3分】

- 1クール目と違うテーマを扱うグループに移動します。ただ、各班1人は1クール目と同様の班に残ることとします。

～2クール目～【35分】

- 班ごとに役割（タイムキーパー）を決めます。\*進行役は、1クール目より残った方とします。
- グループごと配置された職員から、当該事業の概要について説明を聞きます。【5分程度】
- 班ごとに、残った人が1クール目で話し合われた内容について紹介します。【3分程度】
- 職員による情報提供および1クール目での議論の内容を踏まえて、1クール目と同様に、当該事業について参加者が「良いと思ったこと」「疑問に思ったこと」「改善が必要と思ったこと」などを付箋に書きだしてもらいます。【10分程度】
- 1クール目と同様に、各参加者が1人1分程度で、付箋を書き出した内容を紹介しながら、模造紙に付箋を貼りだします。【7分程度】
- 全員が意見を出し終わったら、お互いに感じたことや疑問に思ったことを自由に議論しながら、似ている付箋を枠でかこみ（グルーピング）、タイトルをつけてまとめます。【10分程度】

記入シートのイメージ  
(2クール目)

班名	メンバー
重点政策名「〇〇〇」	モデル施策名「〇〇〇」
■良かった点 タイトル 	■疑問点・改善点 タイトル 
■その他の意見 	

～全体共有～【15分】

- 最後に、全体に対して各班の代表者が議論の成果を発表・共有します。【15分】

【休憩（10分）】

## ワーク②「重点政策の施策への新しい参加・協働の可能性を探る」 (100分)

ここでは、ワーク①で議論した事業において現在区が実施している「参加」「協働」の取組みについて、区民として「もっとこんなことができる」というアイデアを議論してもらいます。

- 班ごとに役割（進行役、タイムキーパー、書記）を決めます。【3分】  
\* 班分けは、ワーク①の2クール目の班分けとします。
- 当該事業について、「新たにどのような参加・協働の形があるのか」「自身はどのような形であれば参加・協働することができるのか」「その際の障壁はなにか・どのようにすれば乗り越えられるのか」等について、各自で付箋に書き出してもらいます。【10分】
- 各参加者が、1人1分程度で、付箋に書きだした内容を紹介しながら、模造紙に付箋を貼りだします。その際に、似ている意見を近くに張り出します。【7分程度】
- 全員が意見を出し終わったら、区民としてこれから実施していきたい「参加」「協働」の取組みについて自由に議論しながら、似ている付箋を枠でかこみ（グルーピング）、タイトルをつけてまとめます。【30分】
- 上記で議論された「参加」「協働」の取組みのアイデアを記入シートにまとめます。【10分】

記入シートのイメージ

班名	メンバー	
重点政策名「〇〇〇」	モデル施策名「〇〇〇」	
①		投票欄
②		
③		
■その他の残したい意見		
④		
⑤		

- 次に、全体に対して各班の代表者が議論の成果を発表・共有します。【15分】
- そして、1人2票ずつ投票を行います。「共感した」あるいは「実現してみたい」というアイデアに投票シールを貼ります。ひとつのアイデアに2枚のシールを貼っても構いません。ただ、必ず1枚は自分の班以外のアイデアに投票するようにしてください。その上で簡単に投票結果の紹介を行います。【15分】

### <投票の意図>

・投票を行うことで、各参加者がそれぞれのアイデアについてより深く検討することにつながり、共有が深まります。また、順位付けを行うことで意見を反映させる際の参考になることが期待されます。

- 最後に、出席している外部評価委員会委員より、感想などコメントをいただきます。【10分】

### 【閉会の挨拶（5分）】